

ステップアップ内視鏡外科手術 [DVD 付]

若林 剛 監修

佐々木 章 編

＜書評者＞ 北野正剛（大分大学学長・教授/外科学①）

このたび、岩手医科大学の若林剛教授の監修の下、佐々木章准教授が編集を行った『ステップアップ内視鏡外科手術』と題する手術書が医学書院から刊行された。消化器外科領域を中心に内視鏡外科手術を幅広く、数多く手掛けてきた同大学外科学講座の、世界をリードする腕利きの外科医たちの総力結集の著書といえる。

1990年、腹腔鏡下胆嚢摘出術がわが国にもたらされた。低侵襲治療としての内視鏡外科手術の夜明けであった。以来、この20年余りの間に、内視鏡外科手術は「低侵襲性手術」としてのカテゴリーを確立しながら急速に普及し、その適応は、良性疾患はもちろん早期がんから進行がんへと拡大されてきた。さらに、内視鏡外科手術の対象は胆嚢、大腸、胃にとどまらず、肝・膵・脾、乳腺・内分泌、高度肥満などへ広がり、単孔式腹腔鏡下手術やNOTES（経管腔の内視鏡手術）、内視鏡手術支援ロボットも登場してきた。この目覚ましい手術革命は、「体に優しい」手術が、国民の福祉に貢献し、社

会が求めているためにほかならない。

内視鏡外科手術は、従来の開腹手術と異なり、モニター下の空間における鉗子操作となるため、術者には特殊なトレーニングが必要とされる。また、新しい内視鏡外科手術機器や器具も次々に開発され、その特性や適切な使用法を熟知することが求められている。日本内視鏡外科学会は北島政樹前理事長の下、2004年に内視鏡外科の安全な普及と指導者の養成を目的に、技術認定制度を発足させている。その習得をめざして多くの外科医たちが日々研さんに励んでいるが、そのハードルは決して低いものではなく、手技のトレーニングや教育の重要性があらためてクローズアップされてきている。

このような時代背景の中、今回、岩手医科大学外科学講座が上梓した本書は、まさに時宜を得た企画である。「総論」では、内視鏡外科一般に関するルームセットアップから術野展開法、止血法、消化管吻合法、さらには数多く開発されているエネルギーデバイスにつ

いてまで、基本的な手技や知識を解説している。また「各論」においては、食道、胃、大腸、肝胆脾臓、内分泌外科、小児外科の分野ごとに、鮮明な写真とわかりやすいイラストを用いて、その実践手技のコツを簡潔に解説している。各論で扱われる手術は、腹臥位胸腔鏡下食道切除や単孔式腹腔鏡下手術を含めて27術式にも及ぶ。本書の最大の特色は、解説されている手術手技を実際の動画としてDVDに収め本書の巻末に付されている点だと思われる。生の映像は、どんな素晴らしい成書で勉強するよりもはるかに情報が多いからである。

このような多くの特色を持つ本書は、初学者はもちろん、日本消化器外科学会の専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定取得医をめざしている多くの外科医にとって大いに役立つことであろう。日本内視鏡外科学会の運営に携わる者の一人として、本書を通じて、一人でも多くの外科医が、安全で質の高い基本手技をさらに習得し、わが国全体の内視鏡外科手術の発展に寄与することを期待したい。

●B5 頁260 2012年
定価14,700円
(本体14,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-01542-4]
医学書院刊